

1. 基本的な対応方針

- ① 「ウィズコロナ」の考え方のもと、感染拡大防止と社会経済活動との両立を図る。
- ② 高い水準での感染状況が続く中、福島県の対策を踏まえて、基本対策の徹底に加え、6月12日までの間、子どもの感染拡大防止に重点をおいた対策を講じる。
- ③ 市医師会、各医療機関と連携しながら、できる限りワクチン接種の促進を図る。
- ④ 地域の総力を結集して乗り越える。

2. 感染拡大防止対策

本市では、家庭、児童施設・学校、部活動、飲食、帰省・旅行、職場など様々な場面で感染が広がり、高い水準での感染状況が続いており、特に、子ども関連施設では連日クラスター発生が続いています。

福島県感染拡大防止のための基本対策に加え、子どもの感染拡大防止重点対策(6月12日まで)を踏まえた市の感染防止対策を実施するとともに、市の「急拡大防止のための重点ポイント」に沿って、感染拡大への警戒を強め、【市民の皆さまへ特にお願ひしたいこと】に留意して、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

【市民の皆さまへ特にお願ひしたいこと】

「自分が感染しない、他人にうつさない」～3つの徹底を

- ① 休憩、会食時など気持ちが緩む場面でも、会話時のマスク着用や換気を忘れずにしてください。
- ② のど、咳、熱など体調に異変を感じたら外出せず、医療機関等に相談・受診してください。気になる方は薬局等での無料検査をご利用ください。
- ③ 近くに体調の悪い人がいたら注意信号です。いつもより感染防止対策を強化し、警戒を強めてください。

3. 市独自の感染防止対策

- ① 県の子どもの感染防止重点対策を踏まえた福島市感染防止対策の実施 (別紙1参照)
- ② 新型コロナ感染拡大防止注意喚起広報パッケージでの呼びかけ
- ③ マスク着用の取扱いの変更について分かりやすく周知する。(資料1参照)

急拡大防止のための重点ポイント

家庭、児童施設・学校、部活動、飲食、帰省・旅行、職場など様々な場面で感染が広がり、高い水準の感染状況が続いています。
感染防止対策をしっかりと行って、活動との両立を図りましょう!!

「自分が感染しない、他人にうつさない」～3つの徹底を

- ① 休憩、会食時など気持ちが緩む場面でも、会話時のマスク着用や換気をお忘れなく!
- ② のど、咳、熱など体調に異変を感じたら外出せず、医療機関等に相談を! 気になる方は薬局等での無料検査をご利用ください。
- ③ 近くに体調の悪い人がいたら注意信号! いつもより、感染防止を強化し、警戒を強めてください。

県の子どもの感染拡大防止重点対策を踏まえた福島市感染防止対策(5月30日)

1. 総体的対策

(1) 6月12日までの期間、福島県子どもの感染拡大防止重点対策を踏まえた本市の感染防止対策の強化

(2) 少しでも症状のある時は登校・登園を控え、軽い症状の方はまず受診・相談センター等に電話相談するよう周知徹底

- ・指導者は児童生徒の健康観察を行い、体調不良時は帰宅、症状が見られた場合は自宅休養、受診・相談センター等への電話相談を指導
- ・家族に症状がある場合には、家族ともども出勤、登校・登園を控えるよう依頼

2. 子どもを感染から守る対策

学習活動中をはじめ、登下校中・休憩時間・放課後・その他の活動における基本的な感染防止対策を徹底する

(1) 学校における感染防止対策

- ① 日々の健康観察の強化・徹底
- ② 1mを目安に学級内で最大限の身体的距離の確保
- ③ 次のような学習活動については、適切な感染症対策を行った上で実施する。
(部活動においては、可能な限り感染症対策を行った上で徐々に実施する)
・長時間の近距離対面グループワーク、近距離の大声一斉発声、室内・近距離での合唱・管楽器演奏、体育での密集活動・組み合わせ活動
- ④ マスク着用(不織布マスクを推奨)、手洗い・手指消毒、換気の徹底
※なお、マスク着用の考え方については資料1参照
- ⑤ 給食時の感染防止対策の徹底
・手洗い、黙食、身体的距離の確保、会話時のマスク
- ⑥ 部活動における感染防止対策の徹底
・適切な感染症対策を行った上で徐々に実施し、教師等が活動状況の確認を徹底
- ⑦ ICT を活用した学習保障の推進
・自宅待機・自宅学習者へのオンライン配信、端末持ち帰りと学級閉鎖時等のオンライン学習への切り替え

(2) 保育所・認定こども園・幼稚園における感染防止対策

- ① 日々の健康観察の強化・徹底
- ② 未就学児のマスク着用の取扱いについては資料1参照

- ③ 近距離で一斉に歌う・ダンス・体操などの室内遊びを避け、少人数グループへの分散
- ④ 合同保育を避け、少人数グループへの分散
- ⑤ 共用する遊具・玩具のきめ細かな消毒・交換
- ⑥ 大人数での行事の自粛(日頃から園生活を共にしているもの以外の参加の自粛)
- ⑦ 保護者参加の行事等は、出席者を最小限とし、感染防止対策を徹底して実施
- ⑧ 送迎等での接触低減の徹底
- ⑨ 換気の徹底(送迎バスも含む)
- ⑩ 食事場面での手洗いの徹底、発育状況に応じた黙食の指導、机を向かい合わせにしないなどの対応

(3) 学童や児童養護施設における感染防止対策

- ① 日々の健康観察の強化・徹底
- ② マスク着用(不織布マスクを推奨)、手洗い・手指消毒、換気の徹底
※なお、マスク着用の考え方については[資料1](#)参照
- ③ 施設の実情に応じた身体的距離の確保～近距離で行う活動を避ける
- ④ 共用する遊具・玩具のきめ細かな消毒・交換
- ⑤ 集まっての飲食は避け、飲食時は黙食、会話時にはマスク着用を徹底
・おやつや食事時の感染防止対策の徹底
- ⑥ 行事等は、出席者を最小限とし、感染防止対策を徹底して実施

3. ワクチン接種の促進

- ① これまで接種が出来なかった方へのフォローアップ接種を実施
・予約のしやすい週末に集団接種を実施
 夜間接種
 予約なし接種
 初回(1・2回目)接種(ファイザー社製)
・アレルギー等で接種を控えていた方などを対象に、新たなワクチンでの接種を6月23日から開始
 ワクチン:ノババックス(武田社製)
- ② 5-11歳、12-17歳の接種希望者に対し、接種可能な体制構築と継続
- ③ 重症化予防を目的とした追加(4回目)接種を5月26日から開始

	接種（開始時期）内容
5月	新たな事業所連携型集団接種（5/17～31）
	県大規模接種会場と連携した夜間接種（5/18～20、5/26～27）
	集団接種会場での夜間接種（5/21、28）
	集団接種会場での予約なし接種（5/20～31）
	大学単位の集団接種 集団接種（福島大学、桜の聖母短期大学）
	12～17歳の追加（3回目）接種 個別接種・集団接種
	5～11歳小児の初回（1・2回目）接種 個別接種・集団接種（福島圏域広域連携集団接種含む）
	<u>追加（4回目）個別接種開始（5/26～）</u>
6月	<u>集団接種会場でのフォローアップ接種</u> ・夜間接種（6/3～18） ・予約なし接種（6/3～6/18） ・ファイザー社ワクチンでの初回接種（6/12） ・ノババックス（武田社製）接種開始（6/23～） 初回・追加接種（1～3回目）
	<u>12～17歳の追加（3回目）接種</u> 個別接種・集団接種
	<u>5～11歳小児の初回（1・2回目）接種</u> 個別接種・集団接種（福島圏域広域連携集団接種含む）

マスク着用の考え方（全体）





	身体的距離を確保できる (2 m以上を目安)		身体的距離が確保できない	
	屋 内 (注)	屋 外	屋 内 (注)	屋 外
会話をを行う	 着用	 必要なし	 着用	 着用
会話をほとんど 行わない	 必要なし	 必要なし	 着用	 必要なし

(注) 外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など

※ 夏場は、熱中症防止の観点から、屋外の「着用の必要なし」場面で、マスクを外すことを推奨

※ 高齢者等との面会時や病院内など、重症化リスクの高い者と接する場合にはマスクを着用する(不織布マスク推奨)

学校等におけるマスク着用について



学校生活の場面	マスク着用の有無
<p>身体的距離が十分に確保できないとき ※ 屋外で会話をほとんど行わないことが想定される教育活動を除く</p>	 <p>マスク着用</p>
<p>十分な身体的距離が確保できている場合 (登下校等)や体育の授業</p>	 <p>マスク着用は必要なし</p>
<p>運動部活動での練習場所や更衣室等、 食事や集団での移動</p>	 <p>マスクの着用を含めた 感染対策の徹底</p>
<p>気温・湿度や暑さ指数が高い夏場</p>	 <p>熱中症対策を優先し マスクを外す</p>

※ 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル等を踏まえた対応を基本とする

※ 運動部活動でのマスク着用は、接触を伴うものをはじめ活動の実施に当たっては、各競技団体が作成するガイドライン等も踏まえて対応

保育所、認定こども園等におけるマスク着用について

2歳以上の就学前の子どもについては、オミクロン株への対応として、令和4年2月から保育所等において、可能な範囲で、一時的にマスク着用を奨めてきましたが、今般、この取扱いが2月の変更前に戻ります。

子ども	マスクの着用について
2歳未満児	マスク着用は奨めない 
2歳以上児	個々の発達状況・体調等を踏まえ、身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律に求めない 



※施設内に感染者が生じている場合などにおいて、施設管理者等の判断により、可能な範囲で、マスク着用を求めることは考えられます。この場合でも、マスク着用を無理強いすることにならないよう、マスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもの体調に十分注意した上で着用しましょう。